

ヘーゲル『論理学』初版（1812年）447段落

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		156	1 2	Zweytes Kapitel. Quantum.	第二章 数量	第二章 定量
447	1		3 4	Das Quantum ist die reale Quantität, wie Daseyn das reale Seyn.	数量は、実在的な量である。それは、現存在が 実在的な存在であるのと同様である。	定量は実在的な量である、定在が実在的な存在 であるように。
	2		4 5 6	Es ist <i>zunächst</i> Quantität mit einer Bestimmtheit oder Grenze überhaupt, aber in seiner vollkommenen Bestimmtheit ist es <i>Zahl</i> .	数量は、【いちばんはじめに】、一般に規定態と いう限界をともなった量であるが、数量の完全な 規定態のかたちでは〈【数】〉である。	定量は、第一に、規定態または限界一般をとも なった量であるが、しかしその完全な規定態にお いては定量は数である。
	3		6 7 8 9 10 11	Das Quan- tum unterscheidet sich <i>zweytens</i> in <i>extensives</i> und <i>intensives</i> Quantum, deren Unterschied aber einerseits gleichgültig ist, so daß dieselbe Zahlbestimmtheit eben so sehr auf die eine als auf die andre Weise vorhanden ist.	数量は、区別されて、 【第二に】、【外延的な】数量と【内包的な】 数量になる。しかし、これらの区別は、一面では 無関心である。だから、同じ〈数の規定態〉が、 同じ程度に、それぞれのあり方で現前する。	第二に、定量は外延的定量と内包的定量へと区別 されるが、しかしこの区別は一面では無関心的で あるので、同一の数規定態が〔外延的と内包的と の〕両方のあり方でまさに同じように現存してい る。
	4		11 12 13 14 15	Anderer- seits aber liegt darin der Unterschied des Quantums an sich selbst, das <i>drittens</i> als an sich selbst äusserlich in die <i>quantitative Unendlichkeit</i> übergeht.	しかし、他面では、〈数の規定態〉のうちに、数 量の区別それ自体それ自身がある。そこで、数量 は、 【第三に】、それ自体それ自身として、【量的 な無限態】へと外面的に移行する。	だがしかし他面では、この〔外延的定量と内包的 定量との〕区別のなかに定量それ自体の区別が存 している。そして、 第三に、定量は、本来的に自己自身にとって、 外的なものとして、量的無限性へと移行するの である。